

岩手 八幡平

【大深沢支流・東ノ又沢遡行】

【日時】

前夜11日発、8月12日(金)～14日(日)

【参加者】

CL 辻本、橋本、村野、石橋、杉山(喜)、石井、明官(会員外)、
加藤(記録)

「ルート」8月12日曇り、霧、風強し

八幡平樹海ライン・赤川橋下(入溪) 8:15→大深山荘 10:00→嶮岨森 10:50→鞍部から仮戸沢下降 11:10→大深沢出合テント場 14:20→
ナイアガラ滝往復(テント場泊)

八幡平の沢は深く、長い。アスピーテラインから舂岳手前の稜線を伝左星門沢へ下降し、湯田又沢出合で1泊。翌日は湯田又沢下降→大深沢遡行が沢旅として相応しい。しかしこのルートは車の回収と遡行の体力とスピードが要求される。あれやこれや考えあぐね、東北の沢ガイド「沢の扉」を参照させていただき、大深沢最奥部へお手軽山行とした。

松尾八幡平 IC 付近にコンビニはなく、国道182号線に食料を求めて走った。その後、松川温泉方面へ向かい、途中のチェーン着脱場の広い駐車場で仮眠(トイレ有)。松川温泉を経て、樹海ラインの標高1147m赤川に架かる橋の横に駐車スペースがあり、早々に入溪する。この赤川は大深山荘建設時の作業道のように、標高差250mほど。その名の通り朱色の岩盤が続く。大深沢へのアプローチとしては最短である。一ヶ所だけ泥岩のゴルジュがあり、フィックスロープが数本束ねてある。大深山荘へは沢の分岐を左へ辿って行けばいいのだが、ニッコウキスゲが咲く最後の分岐で右に入り込み、藪漕ぎの洗礼を受け、登山道近くの池に出してしまった。池の周りには道が無く、背丈を越える藪漕ぎ後、やっと大深山荘に到着。

山荘の中を偵察した後、登山道を歩き、嶮岨森山頂を越え、1360m地点の鞍



赤沢のゴルジュ



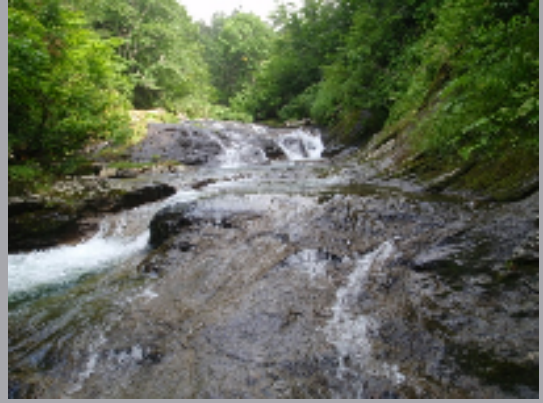
大深山荘

部から仮戸沢源頭を目指して笹藪の海に突入する。時折、赤テープもあり分程度で水流が現れる。あとはどんどん下るのみ。両側の笹が覆い被さり歩きにくいのがゴロ口状になると沢らしくなる。大岩を伝って下って行くが、ロープを出す程の傾斜はない。大深沢の手前992mをテント場に決めた。設営後いよいよナイアガラ滝の滝の探索である。大深沢の上流の3つの支流(北ノ又沢、東ノ又沢、仮戸沢)が出合う三俣付近は幅広いナメが数百メートル続いております。さらにナメの下部には落差20mのナイアガラ滝が大量の水を落としている。北ノ又出合付近にテントを張っていた東京の「ブナの会」の

山の幸



ナイアガラの滝



大深沢のナメ



ナイアガラの滝での記念写真

人から聞くとところによると、滝壺付近に岩魚が多くいるとのこと。滝上で支点を2ヶ所取り1本懸垂で、まず男性4人が下降して釣りを始めた。上から覗いていると早くも岩魚を釣り上げているのが見えた。大深沢上流で有名なのが、このナイアガラの滝で、8分位で岩魚10匹を釣り上げた。滝の真ん中にFixしたザイルをブルージックで登り返し、テント場に戻り、焚火を熾し、岩魚2匹を刺身に、7匹は塩焼きで頂いた。もちろん岩魚の骨酒も味わった。

8月13日 曇りときどき晴れ
テント場7:40〜東ノ又溯行〜登山道12:50〜お花畑往復〜
大深岳山荘15:40

昨日と違って青空も見える。朝はゆっくりと起床し、ご飯を炊く。東ノ又を地図で確認し、遡行開始。

東ノ又沢は川床がピンク色?で一部が削られグレーになったナメ床が続いていた。1140m付近になると少しゴルジュとなり、大きな釜を持つ滝は、右岸の笹を掴んできわどく巻く。ここ以外、微妙なところは無く、東ノ又ではロープを出す所はなかった。

1300m付近から段々と藪のようになるが、水は枯れていない。橋本さんのGPSでは1300m。高度計の4人は1220mと80mの差が出る。詰め上げる稜線は1400m。

どちらが正しいかと思っていたら、突然藪が切れて登山道に出た。やはりGPSには敵わない。

登山道にザックを置き、お花畑まで往復する。お花畑は広大な草原に池塘が点在し、濃い紫のオオバギボウシやイワイチョウが群生していた。

お花畑を満喫後、大深山荘へ急ぐ。先発隊2名を先にやり、山荘の2階スぺ

ースを確保する。

山荘近くの水場には、パイプから冷水がどんどん出ていた。テラスで宴会をしていると登山者が次々と到着。さらにアメリカ人とドイツ人のグループも到着した。お盆の時期で混雑するかと心配していたが、程良い15〜16人くらいが山荘を利用した。

8月14日 稜線霧、下界は晴れ

大深山荘6：20〜赤川の駐車スペース7：40〜藤七温泉〜盛岡〜

起床すると深い霧に包まれていた。朝はラーメンで簡単に済まし、三度目の沢支度をして、山荘近くの小さな橋から、藪漕ぎなしで赤川源流を下降する。1時間半ほどで、駐車スペースに到着。2日半の沢を楽しんだ満足感と無事を喜び、みんなで握手。

次はいよいよ温泉探索である。まだ時間が早いので松川温泉ではなく、樹海ラインを八幡平山頂へ進み、藤七温泉(六百円)の内湯と露天風呂で汗を流した。温泉の建物の山側には名物の露天風呂(混浴)もあったが、今回は三日分の汗や頭を洗うため、入らなかった。

アスピーテラインを下り、松尾鉱山跡の廃墟を見て、盛岡市内の人気店「ぴよんぴよん舎」で冷麺と焼き肉を賞味した後、東北自動車道で帰葉したが、夜11時前には千葉に戻ることができた。



稜線にて



東ノ又進行

